

## 【事例9】 チェーンメール

- ◆ 中学男子生徒Aが、いたずらでスマートフォンのタイムラインに「自分が事故にあって意識不明だ」と書き、女子生徒Bに送った。Bがこの内容に「みんなに知らせてほしい」と付け加え、タイムラインに掲載したため拡散し、多くの生徒が反応した。



- ◆ 小学生Cに他校の児童から、LINEで「連れ去られた彼女を探すために協力してください。1週間以内に10人に回してください」と送られてきた。読み進めていくと、「10人に送らないと犯人又は協力者と見なし、殺しに行く」という文章が記載されていた。Cは、学校で指導されたことを思い出し迷ったが、怖くなって数名に送ってしまった。

## (未然防止)

チェーンメールは、受け取った人が被害者となる一方で、他の人に送信した場合は自分が加害者となります。チェーンメールは、受信者に迷惑をかけるとともに、ネットワークに多大な負荷を与えることとなります。被害者にも加害者にもならないように、チェーンメールの指導に関しては、次の3点が考えられます。

### 1 どんなメールがチェーンメールかを理解させる。

不安をあおったり、脅迫の言葉を使ったりすることによって、特定の内容のメールやメッセージを多くの人に転送させようとしています。

(例)

- ・「このメールを〇〇人に送らないと、不幸なことが起こります」
- ・「スマートフォンのウィルスがはやっていて、みんなに知らせてください」
- ・「このメールを止めると、あなたが△△万円支払わなければならなくなります」
- ・「このメールを転送しなかったら、あなたの居場所が分かります」

### 2 チェーンメールがなぜ悪いのかを理解させる。

メールやメッセージを受け取った人が不安になったり、怖い思いをしたりすることがあります。このことは同時に、メールやメッセージを送った自分が加害者になることを表しています。また、このような連鎖が果てしなく続くことになり、被害者や加害者がねずみ算式に増えていきます。

### 3 チェーンメールの種類について理解させる。

チェーンメールには、恐怖系、幸福系、デマ系、宣伝・募集系、誹謗中傷（嫌がらせ）系など、様々なものがあり、これらの内容によって、人の善意や心の弱さを利用します。いずれの内容においても、複数の人に転送するように指示があります。

これらの特徴を理解させた上で、このようなメールは送信しないように指導し、また、チェーンメールを受け取った場合には、転送せず、削除するように指導することが大切です。また、どうしても心配で誰かに送信したい場合は、一般財団法人日本データ通信協会が提供している『チェーンメール送信用メールアドレス』などに送信する方法もあることを紹介します。

『チェーンメール送信用メールアドレス』

<http://www.dekyo.or.jp/soudan/chain/tensou.html>